

事件は現場で起きているんだ！

～漁業指導所と普及指導活動～



高知市丸の内
高知県海洋局
発行人 久保田寿一
編集人 海洋企画課
定 価 無 料

指導所	担当区域	主な漁業	課 題
室戸	東洋町～ 安田町	定置網、キンメ釣、 サハ釣	定置網市場統合 キンダイブランド強化
中央	安芸市～ 四万十町	ハッチ網、養殖 シラマキ網 ウルメ釣	イワシ加工、ニギス、シ ラ消費拡大 養殖マダイ産地化
土佐 清水	黒潮町～ 土佐清水 市	サハ釣、定置網 ムカヒギ縄 カツオ一本釣	ムカヒギ価格対策 清水サハ販売強化 佐賀カツオブランド強化
宿毛	大月町～ 宿毛市	養殖、イワシ、アジ、 シラマキ網	養殖販売系統化 まき網販売強化

■漁業指導所とは

沿岸漁業者等に対して技術や知識を普及して漁業者の資質向上を図るとともに、地域漁業活動や組織を活性化させることを目的に、水産振興課の出先機関として室戸、中央(須崎市)、土佐清水、宿毛の4箇所に配置されています。

■普及内容の変遷

普及指導員制度(旧水産業改良普及員制度)は昭和28年に発足し、当初は漁労技術の改善や新たな漁法の導入、あるいは新規漁場の開拓など、生産性をいかに向上させるかという取り組みが主でした。

その後、漁業従事者の生活改善や経営指導なども行うようになり、最近では魚価低迷を反映して流通販売支援に重点を移すなど、普及内容も時代とともに複雑化、多様化しています。

海洋局が所管している業務は流通対策や漁協合併など、水産業と一口に言ってもその分野は多岐に渡っていますが、これらの事務は基本的には本庁で行っています。しかし、刻々と変わっていく現場の状況や漁業者ニーズの把握、あるいは新たな流通への取り組みのサポートなどは机の上、頭の中で考えるだけでは通用しません。現場でないと肌で感じられないことは多く、また現場でしか出来ないことも多くあります。

今回は、行政と漁業者の間をつなぐ役割を担い、漁業現場で漁業者の取り組みのサポートに奔走する、漁業指導所と普及指導員の活動を紹介します。

まず定型的な業務としては、水揚げ状況の把握や、漁場の水温、水中の酸素量等を測定して漁業者へ提供する事などがあります。また、養殖の盛んな地域では、養殖魚の病気を診断して適切な対処を指導したり、赤潮の調査なども行っています。



その他、先進事例を視察調査して、その技術を導入する試験を行ったり、個別経営体の経費分析を行って効率的な経営を提案したりもします。また海洋局の重点課題である流通販売の分野では、漁業者とともに営業に回ったり、実に幅広い支援業務を行っています。

漁協合併を推進しましょう

● 購買は漁協を利用しましょう

● 預金、公共料金は信漁連へ



「現場の空気」 行政はもとより、系統団体でも現場から遠い組織ほど、現場の空気、意識が身近でなくなることは否めない。これは、漁協合併の議論でもデメリットとしてよく取り上げられる。しかし、組織的な部分でいえば、限定的に対応するなり工夫はあろうし、属人的な部分でいえば、人事異動で対応できる。いずれにせよ、硬直的な組織、人事でなく、柔軟性を持たせる仕組みが必要だ。

■漁業者の信頼

とかく行政というと、身構えられがちな存在ですが、普及指導員は地域の漁業・漁村にはなくてはならない存在として

■現場第一主義

海洋局では浜の主役である漁業者自ら行う流通、販売等の取り組みに対して、今後とも現場第一主義で支援していきます。

【編集後記】 本庁生活も8年目に入り、すっかり現場と乖離してしまいました。現場に行っても既に使われているものにならないとも言われていますが、それでも毎日のように上司に異動希望を訴えています。もし来年異動しなかつたら育児休暇を1年取ってやる(T.T)

「現場の空気」 行政はもとより、系統団体でも現場から遠い組織ほど、現場の空気、意識が身近でなくなることは否めない。これは、漁協合併の議論でもデメリットとしてよく取り上げられる。しかし、組織的な部分でいえば、限定的に対応するなり工夫はあろうし、属人的な部分でいえば、人事異動で対応できる。いずれにせよ、硬直的な組織、人事でなく、柔軟性を持たせる仕組みが必要だ。

漁業経営のことなら、今すぐお電話を！

専門アドバイザーが、漁業経営、流通改善について無料でご相談に応じます。まずはお電話を！



● 漁業経営指導協会 tel 088-825-3980
● 上原アドバイザー tel 090-1570-4904